

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ---)

事業所番号	0692700016		
法人名	社会福祉法人いいで福祉会		
事業所名	グループホームひめさゆり荘2号館		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字椿3642		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 20	開設年月日	平成19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎「私達は笑顔を大切にします」というケア目標を掲げ、常に笑顔を保つやさない対応を心掛けています。
 ◎ホーム隣接の施設との合同夏祭り・地域の行事イベント・いきいきサロン等への参加、そして日常の暮らしの中にも張り合いや楽しみを見つげられるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成25年10月15日	評価結果決定日	平成25年11月1日

事業所は、法人の2番目のグループホームとして、町の保健・福祉施設エリアの中に1ユニットで開設されて7年目である。職員は、「ふつうの暮らしを送れる家庭的な生活環境を提供する」等の基本理念、「私たちは笑顔を大切にします」というケア目標を基に自立に向けた支援を行い、利用者はそれぞれに自立性を有した暮らしが出来ている。また、事業所は、他の施設と合同で夏まつりを開催し地域の方を招いたり、利用者が地域の「いきいきサロン」に参加できるように支援するなど、地域との相互交流に努め、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」地域密着型サービス事業所としての意義や役割を一人ひとりの日々のケアに活かしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念をもとに、スタッフ全員がが共有して実践できるように、わかりやすくより具体的なケア目標を作成しています。	「ふつうの暮らしを送れる」ように支援する等の基本理念に基づき、「笑顔を大切にします」というケア目標を定め、掲示している。毎月のスタッフミーティングで、この内容を踏まえた支援が行われているか、前回の目標達成計画に掲げた振り返り・評価が行われているかを確認しながら、一人ひとりのケアの向上を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいきサロンや地域の行事イベント・催し物等への参加での地域の方との交流やご利用者の方の馴染みの場所への外出等地域との関係を途切れないように心がけています。近隣施設との合同の夏祭りや避難訓練等交流を図っています。	地域の「いきいきサロン」等行事・催しへの参加や地域の馴染みの場所の訪問を支援するとともに、近隣保健・福祉施設との合同で開催の夏祭りや防災訓練を地域の方々の参加を得て行うなど、地域との密度の濃い相互交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報等を通じ、理解を得るようにしています。また、ご利用者の家族への状況報告時等認知症について理解をしてもらえるように認知症の症状や支援等についても話しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取組・事故等の報告も行き、具体的な内容でのご意見をいただき、より良い施設運営に努めている。また、外部評価項目に沿ったテーマで検討を行い、それをもとにケア目標を作成し実践に向けて取り組んでいます。	町包括支援センター職員・民生児童委員・公民館長・社協・家族等の出席を得て、近況報告を踏まえ、例えばインフルエンザへの対応や防災対応、外部評価への対応等について意見交換を行い、それをサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに町職員も入ってもらい、情報の交換を行っている。また日々のサービスについても相談や情報の交換が気軽にできる協力関係にあります。	運営推進会議に町職員も入ってもらい情報提供や意見交換を行っている。また介護認定調査の際の協力を行い、その後、町からは手続きを経て主治医意見書や認定審査会結果について提示してもらい、一人ひとりのサービス計画に反映するなど、町との密接な協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員身体拘束の共通理解をして拘束をしないで過ごせるような工夫とケアの実践にスタッフ全員で取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束防止マニュアルを活用し、スタッフ会議等で職員に徹底している。職員は身体拘束の具体的な行為を理解し、外出傾向がある利用者については、その原因を話し合い、見守りや、一緒に行くなどして拘束をしない工夫に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会や日常のケアの話し合いを通して、スタッフ全員共通理解をもってケアを行っています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在制度利用者なし。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分に説明を行い利用者家族の理解を得るように努めている。解約の際にはその後の生活についても相談できるようにしています。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との懇談会(年1回)や面会・電話等での情報交換を密に行いご家族との信頼関係を築き、意見や要望を気軽に話できるような雰囲気作りに努めています。出された意見や要望はスタッフで検討し実践できるように努めています。</p>	<p>利用者とは日々の会話の中から、また家族とは面会や電話連絡時更に家族懇談会等、機会ある毎に意見や要望を聞くようにしている。個人が特定できない形で意見を表せるよう意見箱も設置している。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフミーティング等、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全員を対象とした定期的な面談や必要に応じた随時の面談を行い、様々な状況は把握されている。資格習得への支援や定期昇給もあり、職員が安心して働ける環境です。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が実施する研修の他に外部研修・交換実習・置賜地区ブロック会にも積極的に参加し、研修後は報告会を行いケアの向上に繋がるようにスタッフ全員で検討し、実践できるようにしています。	年4回の法人研修・月1回のスタッフ会議における事業所内研修のほか、町主催研修・交換実習・GH置賜地区ブロック会への参加などを通じて、職員それぞれに求められる知識・技能の向上を促し、また、スキルアップを図っている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流の場としての置賜地区グループホームブロック会や町主催の認知症ケア人材育成研修への参加でのネットワーク作りや研修を通して、サービスの質の向上を図っています。	GH置賜地区ブロック会や町主催「認知症ケア人材育成研修」などに積極的に参加させるとともに、同種施設との交換実習を行い、情報交換やネットワーク形成を促進しサービスの質向上に活かしている。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報を参考に、入所前にご本人と直接会って困っていることや不安な事を良く聞くように努め、不安を少しでも軽減できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望を受けた時から相談に応じ、ご家族の思いとご本人の思いをそれぞれに大切に受け止め、安心してご利用していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接によりご利用者の状況を把握、必要な支援を検討し、必要であれば他のサービスの紹介もおこなうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で必要な家事作業等をできる範囲で手伝ってもらうことで、介護されるだけの立場にならないように、一緒に過ごす時間を大切にしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて日頃の生活の様子を報告して情報をご家族と共有し、入荘後も円滑な関わりを継続していけるように支援しています。またご家族の相談に対しては随時対応して、一緒に支え合う関係づくりに努めています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や床屋での散髪の継続、定期的にドライブ等で馴染みの場所へ訪れています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆の中で一人にならないで関わりをもって生活できるように、気の合う同士の席を近づけたり、職員が間に入って話題の提供や一緒に楽しむことができる活動の提供に努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に移られた方などには、面会に行ったり必要に応じて情報の提供を行っています。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からこだわりや好きな事を聞いたり、日々の生活の中で意向の把握に努め、本人本位の検討を心がけています。	入所時に利用者・家族から詳細な聞き取りを行い、入所後はセンター方式アセスメントシートを活用し、職員一人ひとりの気付きやこだわり等を細かく追記し、利用者の思いや希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時や面会時等に生活歴や暮らしぶりを聞いたり、サービス利用の情報をケアマネージャーからサービス利用時の情報を提供してもらっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ごとのチェック表を作り、一人ひとりの生活のリズムの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、ご家族にもケアカンファレンスへの参加を依頼し、話し合いをもって意向・要望が反映できるようにしています。モニタリングは毎月行い、その都度解決すべき課題についてスタッフ会議で検討しています。	月1回のモニタリングを踏まえ、6ヶ月に1回、スタッフの検討会議を経て介護計画を見直している。その際は家族の意見も聞きながら作成するが、変化がある場合はその都度見直しを行っている。なお、家族の意見の反映については、その記載方法について、さらに検討中である。	
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・気づき等を個別ケース記録に記入し、それ以外の申し送りや対応については別の日誌に記録。業務に入る前に各自が目を通し、職員間で情報を共有しています。毎月のスタッフ会議では、必要に応じてケア内容や介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時地区住民・近隣公共施設・消防の協力を得て行っている。また、地区の公民館活動のいきいきサロンに参加させてもらっている。隣の図書館にも散歩しながら立ち寄ってみたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院についてはご家族にお願いしているが、受診の際は「通院連絡簿」に身体状況・バイタル記録等必要な事項を記入した記録簿を持参してもらい、情報の共有を行い適切な医療が受けられ、指示された対応が実施できるように支援しています。	受診は、基本的には家族同行でお願いしている。その際は、家族に日頃の心身の状況を記載した「通院連絡簿」を持参してもらい、受診後は、その結果を記入している。医師によっては、直筆で記入される方もあり、医師・事業所・家族の情報の共有が図られ、適切な医療が受けられるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人運営の特養看護師と連携し、個々のご利用者が適切な診療・看護を受けられるようにしています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には定期的に病院に赴き早期退院ができるように、情報交換や相談に努めています。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時にホームで《できる事》《できない事》の説明を行い理解を得ている。重度化した場合は当法人運営の特養への移動も含め、ご家族と情報を共有しながら話し合いを行っています。入院時には必要に応じて一緒に病院との話し合いに参加したり、より良い対応を一緒に考えていきます。</p>	<p>重度化した場合の対応については、入所時に利用者・家族と十分な話し合いを持っている。重度化した際の対応については、同法人の特養入所も含め、入院希望の医療機関を確認している。立位困難や食事摂取が困難になった場合などは、その都度、家族や医療関係者と話し合い、方針を確認し、情報を共有しながら対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDを設置しており、消防署より救命講習やAED使用の講習を受けている。また、必要に応じて同法人特養看護師より対応法や指導を受けています。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近隣公共施設と年2回の避難訓練を実施しており、関係機関や職員連絡網による協力体制の確認を行い、災害時の安全を図っています。非常食や非常グッズの整備を行い、非常時の安全と食材の確保を図っています。</p>	<p>町・地域全体の協力を得て1回と、近隣保健福祉施設共同で1回、年2回防災訓練を実施している。今秋は、地域全体で、夜間地震の想定で実施される。非常ベル・配電盤・防火扉等万般にわたって検査をしている。なお、トランシーバーなど機器を整備し有事に備えている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のその人らしい姿を大切にして、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを大切にしています。親しみのあまり慣れ慣れしい安易な言葉使いにならないように心がけています。また、スタッフミーティングの中で職員同士振り返りをして人格の尊重とプライバシーの保護ができるように努めています。	一人ひとりの人格・誇り・プライバシーの尊重を念頭に、日頃から職員間で振り返りを行っている。特に、排泄に関してはさりげない声掛けを心がけている。また、諍いになりそうな場面で、機転の利いたとりなしなども出来ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から思いや希望を聞き取られるように、コミュニケーションを大切にし、思いや希望はご家族に協力を得たり、実現に向けて職員で話合ったりしています。それぞれ生活の場面でも、一方的に押し付けるのではなく自己決定を尊重した関わりを大切にしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが特に日課は決めないで、個々のペースや希望に沿うように心がけています。入所後も自宅での暮らしを少しでも継続できるように、ご本人やご家族から自宅での習慣やこだわり好きな事等もお聞きして、日々の生活に取り入れられるようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの服を一緒に選んだり、朝の洗面時は鏡をみて整容してもらいオシャレや身だしなみに関心をもってもらえるように配慮しています。地区の床屋さんに来てもらったり、馴染みの美容室を利用できるようにしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑の野菜を収穫して旬の野菜の味を楽しんだり、献立にも旬の野菜や行事食を取り入れています。また、調理の下準備や盛り付け等もお願いしており、手をかけて作ったという喜びを感じてもらえるように配慮しています。誕生日には好きな物を提供し、郷土の料理も大切にしています。	利用者の意向も踏まえ、トマト等自家栽培野菜も取り入れながら、3食とも事業所内のキッチンで調理している。利用者は職員と一緒に作りたての食事を楽しんでいる。行事食も誕生日メニューもある。利用者は食事の準備や片づけに参加し、家庭的である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、粥、刻み食、代替え食等その人に合わせた食事を提供し、食事量のチェック、食事時のお茶の提供と午前・午後の水分の提供を行い、水分の確保に十分配慮している。また、それ以外にも好きな時に飲用できるように準備しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨き・ほうじ茶によるうがい等個々に応じて行い口腔内の衛生を心がけている。また、夜間は入れ歯の洗浄・消毒等も行い、その人に応じた対応を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を一番に考え取り組んでいる。排泄表への記入により排泄パターンをつかみ、声掛け誘導・本人からの訴え等随時対応を行っています。排泄の聞き取りや失禁については、自尊心を傷つけないようにさりげない声掛け対応を行っています。	個人ごとの詳細な排泄表を作成し、それぞれの排泄パターンを共通理解として、さりげない声掛けと誘導によって、トイレでの排泄と排泄の自立を目標に取り組み、成果をあげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表により排便状況を把握して対応をおこなっている。野菜を多く使ったメニューや、水分摂取・牛乳等食品による自然排便や散歩や軽運動等を動かすことでの自然排便も心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴を実施し、体調や状況等に沿うように実施している。また、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しんでもらえるように、入浴時間は余裕をもって支援しています。	利用者の体調・希望を聞きながら、午後に、一般・個浴でゆっくりと、週2回以上の入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者が自室で自由に休息をとったり、ソファ等で居眠りをしたり自由に過ごしてもらっています。できるだけ日中活動的に過ごして、夜安眠できるように支援しているが、なかなか寝付かれない人に対しては、眠くなるまで一緒に過ごしたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ごとに服薬明細書綴りを作成し、薬の変更時にはその用法・用量のついて、ご家族からの口頭での連絡以外にも確認し、観察強化し症状の変化については、職員で情報の交換を行いながら対応を行っています。次回の通院時必要な事項については、ご家族にも連絡を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能に応じて、家事作業等自分の役割として行なってもらっています。外出やホーム周辺の散歩等の機会を設けて気分転換を図っています。それぞれ好きな事や得意な事をやって過ごす時間があるように、パズル・本・新聞・脳トレ問題・縫い物・習字等いつでも使えるように準備提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や季節ごとの外出・町内のドライブ等外に出る機会をつくるようにしている。また、ご家族の協力を得ながら通院や馴染みの場所への外出・自宅への帰省等の支援も行っています。	例えば、さくら・ゆり・ダリア・もみじなど季節毎の花めぐりや、自宅・懐かしい馴染みの場所等への外出・ドライブを支援している。また、近隣の保育園や公園への散歩、野菜づくりで、外気に触れる多様な機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持たないことにしているが、希望時には施設管理で必要時に使ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じていつでも電話ができるように支援している。手紙のやり取りをしている方には、ポストへの投函の支援や定期的に近況報告を写真を添えてご家族に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内でも季節を感じてもらえるように、季節ごとの装飾や植物を飾ったりしています。思い思いに時間を過ごせる環境とみんなの中で一人にしない温かい家庭的な雰囲気作りを心がけています。各居室ごと冷暖房の設備があり、その人に合わせた温度調節を行っています。また、馴染みの家具や物を自宅から持ってきてもらったり、好きな物を飾ったりしています。	事業所全体が広くゆったりとしたつくりで、採光や温度にも配慮され、居心地の良い共用空間となっている。居間は、テーブル・ソファ・畳敷きともゆったりとしており、写真や飾り物などもあり、利用者は自室にこもらず、談笑・趣味・テレビなど思い思いの楽しみ方で生活している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談しながら、馴染みのものや家具等を持ってきてもらったり御家族の写真を貼ったり、本人が居心地良く過ごせるように配慮しています。	居室は、馴染みの家具を持ち込み自宅と同じように配置したり、多くの写真で飾りつけたり、整頓したり散らかしたり、それぞれのやり方で居心地の良さをつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きめの表示をしたり、ドアを居室の物とは異なったものにして認識しやすいようにしています。部屋がわからなくなって迷う人には、居室入口に立体的な表札をつけています。また、衣類の整理が自分でできるように工夫しています。	/	/